



赤坂神楽団



外内の手踊り



阿波踊りきずな(福島市)



外内の手踊り

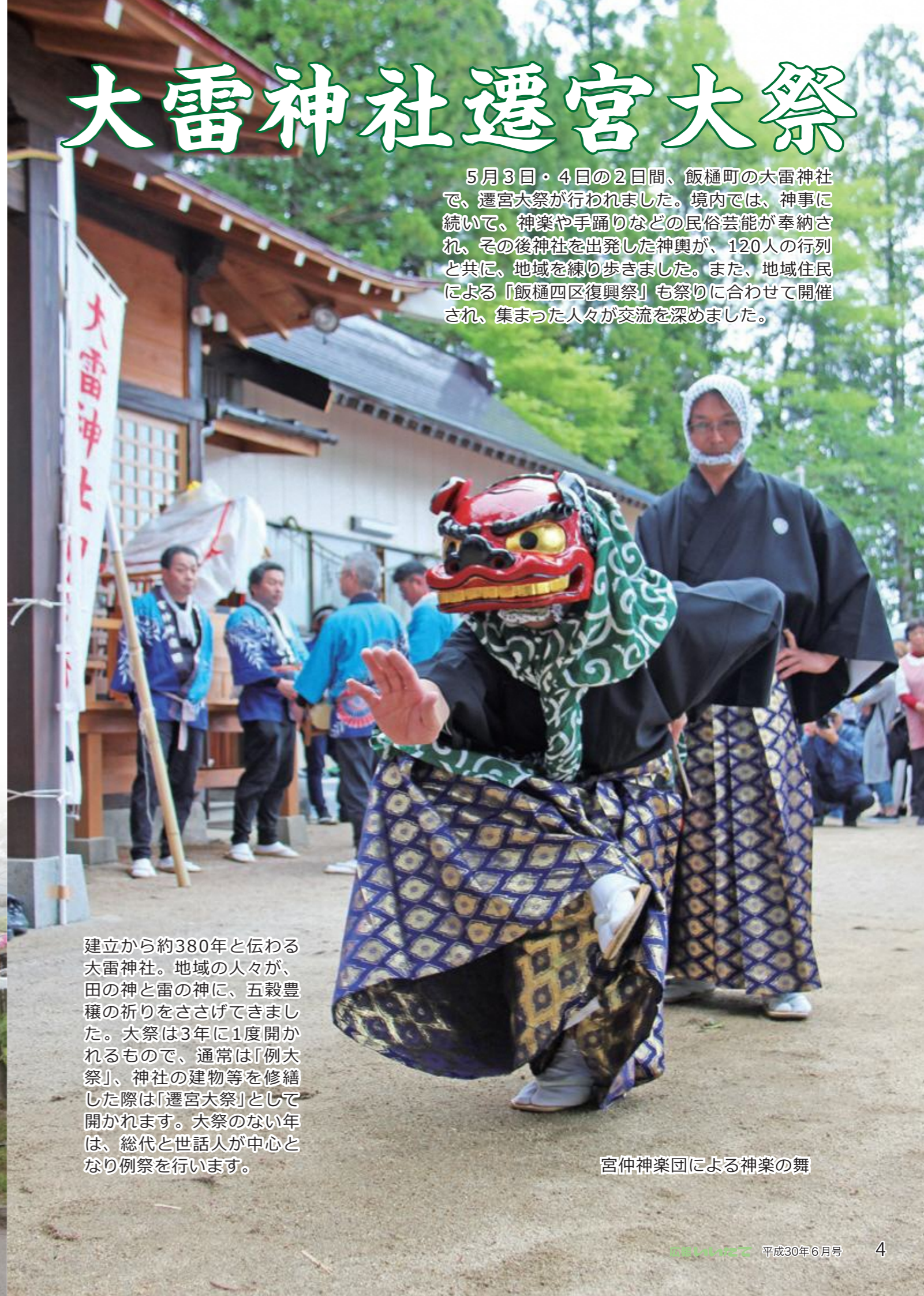
離ればなれの避難を乗り越えてきた見事な神楽、直前まで練習したという手踊り、避難中にながりのできた阿波踊りなどが、途切れることなく奉納されました。また、村外で暮らす人も駆けつけて、大勢の笑顔が沿道を埋めていました。それは皆が待ち焦がれた光景でした。にぎやかさの中で時折ぐつと目をうるませる人も多くあり、人々が語らずとも思いを分かち合っていました。

この日を待っていたー 10年ぶりの大祭

震災前まで3年に一度行われていた大祭。今回は、平成20年以来10年ぶりの復活開催となりました。平成23年に予定されていた例大祭が震災の影響で中止となり、全村避難となった後は、8人の総代と世話人が毎年の例祭を行いながら、大祭復活へ思いをつないできました。

大雷神社遷宮大祭

5月3日・4日の2日間、飯樋町の大雷神社で、遷宮大祭が行われました。境内では、神事に続いて、神楽や手踊りなどの民俗芸能が奉納され、その後神社を出発した神輿が、120人の行列と共に、地域を練り歩きました。また、地域住民による「飯樋四区復興祭」も祭りに合わせて開催され、集まった人々が交流を深めました。



建立から約380年と伝わる大雷神社。地域の人々が、田の神と雷の神に、五穀豊穡の祈りをささげてきました。大祭は3年に1度開かれるもので、通常は「例大祭」、神社の建物等を修繕した際は「遷宮大祭」として開かれます。大祭のない年は、総代と世話人が中心となり例祭を行います。

宮仲神楽団による神楽の舞

